

「チャレンジ！キッズ・グローバルキャンプ」

1 趣 旨

- ・英語を用いて外国人スタッフと協働する体験活動を通して、コミュニケーション能力、自ら考えて行動する力、チャレンジ精神、協調性を身につけるとともに、自国や他国の文化について理解を深める。
- ・外国人スタッフとの協働や他国の歌、遊び等の文化の体験を通して、楽しく異文化に触れるとともに、英語や外国に対する興味を高める。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成 29 年 9 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日) 【1泊2日】
- (2) 参加者 小学生 31 名 (3 年生 15 名、4 年生 16 名) ※募集 30 名
外国人スタッフ 5 名、青年ボランティア 4 名 (島根大学生 2 名、社会人 2 名)
- (3) 日 程

	9/9 (土)		9/10 (日)
9:30	Reception (受付)	6:00	Wake up (起床)
10:00	Opening & Orientation (開会・オリエンテーション)	7:00	Morning gathering (朝のつどい)
11:00	Let's play games together! (みんなでゲーム アイスブレイク)	7:20	Clean up time (掃除)
12:00	Lunch & Break (昼食・休憩)	7:40	Breakfast (朝食)
13:30	Orienteering (オリエンテーリング)	8:40	Room check (退所点検)
17:10	Evening gathering (夕べのつどい)	9:30	Outdoor cooking (Pizza & Clam chowder) (アウトドアクッキング)
17:30	Dinner (夕食)	14:00	Closing (閉会)
18:15	Bath time (入浴)	15:00	Good-bye ♪ (解散)
19:00	Let's enjoy the cultures of foreign countries! (外国の文化を楽しもう)		
21:00	Bedtime (就寝)		

3 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業では、子供と外国人スタッフが協働して野外活動を行ったり、一緒に生活したりする。英語を学ぶことのみを目的とするのではなく、子供たちが外国人スタッフと活動や生活を共にし、積極的に関わることで、楽しみながら異文化や英語に触れ、英語や外国に対する興味を高めることができる。学習指導要領の改正に伴い、小学校高学年から外国語が教科となるが、その前段階で英語に対する抵抗感を少しでも取り払う、言わば入門編にあたる位置づけとしたプログラムとなっている。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

子供と外国人スタッフのコミュニケーションの機会が多くなるよう、少人数でグループを編成し、コースをグループで協力して歩くオリエンテーリング、グループでピザの具を選択し、作るアウトドアクッキングなど、外国人スタッフと協働して活動できるプログラムを設定した。

4 成果と課題

《成果》

- ・ 事前に、キャンプで使えそうな英語のフレーズを外国人スタッフが発音して自作した DVD 資料「Let's speak English!」を参加者に送付し、当日、参加者が積極的に英語でのコミュニケーションを試みるチャレンジ意欲を高められるようにした。外国人スタッフにも事前に送付しておいたこともあり、参加者からの自分のレベルに合った英語でのコミュニケーションはもちろんのこと、外国人スタッフもそのフレーズを様々な場面で使うことで、双方向のコミュニケーションが活発になる場面が多く見られた。
- ・ 夜には、参加した外国人スタッフから各国の文化・遊び等を紹介してもらい、みんなで体験できる時間を設定した。参加者は、日本と違う国の様子や文化を、驚きの声や「行ってみたい。」などの声を上げながら、興味深く聞いていた。みんなでゲームをし、楽しみながらそれぞれの国の文化について理解していた。
- ・ 参加者アンケートを、事業開始時と終了後の2回実施し、比較した。その結果、「このキャンプを通して、日本人として世界の人々の役に立ちたいと思いますか。」「外国の人との交流を通して自分ができることを増やしたいと思いますか。」「交流した外国の人とこれからも繋がりをもちたいと思いますか。」の3点の質問項目において、いずれの項目も終了後に肯定的な回答が増加した。このことから、外国人スタッフと協働する体験活動を通じ、参加者が自国のみならず他国に目を向けることができ、英語や外国に対する興味が高まったことが伺える。

《課題》

- ・ 今回、外国人スタッフとして5名が参加した。地元大田市勤務の外国語指導助手（ALT）の日程が学校行事と重なり、人材の確保に苦労した。今年度は時期が合わなかったが、次回は国際ワークキャンプなどで外国の方を受け入れている NPO 法人との連携なども視野に入れながら、充実したスタッフ陣で運営ができるようにしたい。
- ・ 参加者と外国人スタッフの関わりがより深まるようなミッションをプログラム内に多数設定するなど、コミュニケーションの場を多く設定していく工夫が更に必要である。
- ・ 短期間の広報期間にも関わらず、30名募集に対し48名の応募があったことから、世間のニーズが高いことがわかる。ニーズに応えつつ、効果的な事業にしていくために、募集人数や実施回数等の検討が必要である。

(担当：企画指導専門職 辻田 渉)



オリエンテーリングでは、グループごとに作戦を立て、ルートを話し合い確認しながら活動した。



「外国の文化を楽しもう」では、各国の文化やゲームなどを体験し、楽しみながら異文化に触れた。



アウトドアクッキングでは、作り方やトッピングの具材を相談し、外国人スタッフと協働して活動した。



活動の様子が夕方の NHK ニュースで紹介された。